

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 12月 9日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690200102号
法人名	特定非営利活動法人 こしき風林火山
事業所名	グループホーム多喜人
所在地	鹿児島県薩摩川内市里町里470 (電話) 09969-3-2127
自己評価作成日	平成22年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kagoshima-kaigonet.com">http://www.kagoshima-kaigonet.com</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成22年11月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームが開設し、3年が経過しようとしている。地域特性上、昔からのなじみの方々が近隣にたくさんおられるため、利用者の孤立感は極めて少ないと考える。外出時等においても、地域住民から話し掛けていただいたりと、地域と密着した、地域の中で生活している実感が持てる。  
また、立地条件としても、里町武家屋敷通りの一角にあり、非常に静かな環境の中、利用者も落ち着いた生活を送ることができる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホーム多喜人は地域住民に親しまれている甑島唯一のホームである。明るく家庭的な雰囲気の中、地域や家庭との結びつきを重視し、利用者の有する能力に応じ、自立した日常生活を営めるよう、利用者の立場に立った生活を支援している。利用者の中には居室で漬物や保存食を作り子供達に送るなど生きがいを持った生活を維持している。職員も利用者を見守りながら、当地域の特性である「絆」を大事に、地域住民の協力を貰いながら支援している。県本土の福祉施設との交流が難しいこともあって、施設長は、島内の福祉施設事業者と甑島地区連絡協議会を立ち上げ、介護職員の資質向上に向けた体制作りを始めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「風」のように清々しくさわやかに 「林」のように静かに深く 「火」のように情熱的に 「山」のようにゆるぎない信念で 住み慣れた地域の中で利用者本位の介護に努めます。	理念をリビングに掲示し、朝礼や職員会議の中で確認し合い啓発を図っている。利用者が地域の中で安心して暮らせるよう努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当該自治会にも加入しており、近隣住民が足を運びやすい環境整備をおこなっている。また、利用者外出時でも、地域住民とのコミュニケーションを積極的におこなっている。	ホームの利用者は地域住民が大半で職員も地域住民である。町内会に加入し、地域の行事、ホーム内の行事などにも参加して交流ができています。また小中学校の体験学習も受け入れて交流の輪を広げている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	職員もまだまだ勉強中であり、地域貢献まではいたっていないが、それぞれが持っている知識の中でおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、現在の利用者の状況や行事報告等おこない、委員からの質疑に答えている。その質疑は各職員も会議録を通じて閲覧している。	運営推進会議は、行政、民生委員、警察駐在員、家族、利用者、職員の出席もあり、定期的開催して地域の情報を交換している。今年度は、夏祭りのあり方などについて意見を交わした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議も1つであるが、各申請時においても申請のみではなく、雑談を含めた状況報告等おこなっている。</p>	<p>離島でもあり、電話だけのやり取りでは十分伝わらない事もあるが、支所の職員とは運営推進会議や、機会を見つけては意見交換している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員会議等において身体拘束について理解をし、身体拘束が利用者にとってどのような影響を与えるかを把握し、身体拘束廃止につとめている。</p>	<p>職員会議などで身体拘束についての勉強会を開催し、全職員が身体拘束廃止に努めている。施錠はしないで警察や地域の協力を得ながら、利用者の安全を見守っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員会議等において虐待の種類等を勉強し、絶対におこなうことがないように、職員同士で確認している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護については、殆どの職員が把握できておらず、学ぶ機会も現在のところ設けていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込時より、重要事項説明をおこない、入所前にも再度説明をおこない、本人・ご家族の納得を得てからの入所対応をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には苦情・意見箱を設置してはいるが、なかなか意見が集まりにくいいため、面会時の聴き取りや電話連絡での状況報告時等で、意見を聴くようにしている。	家族からは、面会や電話の時に意向・意見を聞いている。施設長・管理者は、利用者の家族との面談を増やして意見や苦情を収集し、また気軽に意見がもらえるよう、雰囲気作りに努力している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月おこなう職員会議等で、職員の意見や提案を聴く機会を設けている。また、個人的に聴く場合もある。	毎月の職員会議や個別面談の中で、職員一人ひとりの意見や提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の利用者への接し方、勤務態度等を考慮し、賞与で反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>離島であることもあり、外部研修は充実できていないが、内部研修として講師に来ていただいたりしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在は、ある一部の職員でのネットワークであり、職員全体ではおこなっていないのが現状である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より直接本人へ面会をおこない、本人・ご家族より話を聴くことで、少しでも本人に負担が少なく、スムーズに入所ができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	直接本人より話を聴いた後、さらに詳細な状況を確認するため、ご家族への面談をおこなうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込の段階で、ただ、入所申込書にサインしていただくだけではなく、様々なサービスの説明をおこない、ご納得をいただいた上で記入していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの意義でもある「家庭的な雰囲気の中で」を職員も把握はしているが、どうしても職員の都合や時間の都合で動いてしまうことが多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が遠方在住で、なかなか面会できないご家族には特に、電話連絡等により随時現況報告をおこなうようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時、利用者から要望等あった場合は、事前に先方へ確認し、対応している。	知人や家族への訪問、法事に出かけたり、行きつけの理美容院を利用したり、郵便局から子供に送り物をするなど、自由に外出できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在は利用者同士のトラブルを未然に防げるよう、各利用者の性格等の把握につとめている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	例えば長期入院での退所後は、各職員が都合が良い時に面会に行ったりし、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	まだまだ不十分な部分があり、職員や施設の都合で利用者が動いてしまう部分がある。	日常生活の中で表情や行動、会話の中から意向や思いを把握して対応するよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時は、入所前の事前調査を反映し、なるべく少ない環境変化につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムの把握につとめ、現状の把握をおこなっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前と入所後の状態変化も見られるため、各関係者と確認しながら計画作成している。	事前に家族、主治医の意見を聞いて、1ヵ月に1回職員参加の担当者会議を開催し、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成し、職員間での情報共有を図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なニーズには対応していると思うが、柔軟な支援やサービスの多機能化が図れているかは疑問である。			
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当地域の特性である「絆」を最大限に活用し、地域住民にお世話になりながら生活ができている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域柄、殆ど限られた医療機関での受診となるが、かかりつけ医との連携は密におこなっている。	里診療所が主なかかりつけ医で定期検診や、緊急時往診にも対応できている。家族へは、受診帳を活用し、その都度報告している。また島外での医療も受けられる体制ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者に状態変化が発生した場合は、看護師に連絡し、看護師より医療機関に連絡するようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者が入院となると、島を離れ、本土の医療機関への入院である。入院後は、入院医療機関との密な連携、または面会を通して、スムーズな退院・再入所ができるよう配慮している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現在、ターミナルケアについての体制準備をおこなっている段階であり、早期の実現を図りたい。</p>	<p>入居時にホームでは医療行為の実施は出来ないため医療を要する事態になれば入院になると家族と協議している。現段階では終末期や看取りの事例は無いが、家族・医師・職員で話し合いを重ね、ホームで出来る最大限のケアに取り組む意向である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルを整備し、職員の把握につとめている。また、定期的な職員会議時にも緊急時の対応確認をおこなっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており、また、近隣住民に有事の際の協力を依頼している。	管理者が地区の消防団員でもあり、定期的に避難訓練を行い、近隣や地区住民との協力体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と職員が、昔ながらの顔なじみという場合が多く、言葉遣いも慣れあいになってしまうことが多いため、職員会議等で随時確認している。	利用者を人生の先輩として尊敬の念を持って接し、介護される側の気持ちを大切にケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員が、毎日のコミュニケーションを大事にしており、その時その時の利用者の意向や要望を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	この部分は現在の当施設の課題である。職員や施設側のサービスの提供になりやすい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	殆どの利用者が自分で衣類を決定されている。自己決定が困難な利用者は、職員が利用者を確認しながらおこなっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が最も楽しみにされている食事。各利用者の好き嫌いを確実に把握し提供している。また、片付けも可能な利用者には一緒におこなっている。	利用者の意見を聞き、できるだけ希望する献立を作成している。個々の力量に合わせ、食材の下ごしらえ、下げ膳、台拭き、茶碗洗いなど一緒に行っている。時に雰囲気を変えて焼肉パーティや誕生会、弁当持参のピクニックなどを行い、食事を楽しむようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録等を通し、それを各職員で共有し、必要な対応を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで、清潔保持を図っている。また、年3回程度の口腔ケア勉強会（内部研修）を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	頻回なトイレ誘導や声掛け等おこなっているが、失敗が多く、おむつに移行せざるを得ない利用者が増えているのが現状である。	排泄チェック表や本人の生活リズムなどを参考に、利用者それぞれに合わせた排泄自立支援に努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を非常に気にされている利用者は多く、牛乳や食物繊維の摂取、適度な運動等、利用者の状態を見ながらおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日・時間帯をある程度設定してしまっているため、それに合わせて利用者が入浴されている状況。利用者の希望が引き出せるよう、配慮していきたい。	基本的には入浴日を決めているが、利用者の身体がきれいに保たれるよう努めている。利用者の希望を取り入れ温泉や足湯に出かけることもある。	利用者1人ひとりの希望を聞き取り、それに合わせた個別性のある入浴支援が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者に確認し、利用者の希望に沿って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや散歩等実施しているが、気分転換方法としては不十分である。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日等は、なるべく外へ出て、茶話会や昼食会等を実施している。	天気の良い日は弁当持参のピクニックや近隣の散歩、ドライブ、買い物など支援している。地域行事への参加、ホーム行事にも家族や地域の人々の参加をもらい楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>殆どの利用者が財布を持っておられ、お小遣い程度のお金を管理している。また、買い物も個人で支払ってもらうよう配慮している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自ら電話や手紙を書くことができる利用者は限られているが、その他の利用者についても、電話の希望があれば職員にて対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>まず、職員が注意していることは「におい」である。外部からのお客様が最初に感じられる「におい」に配慮し、環境整備をおこなっている。</p>	<p>リビング、食堂が広々と明るい空間になっていて、台所から利用者がくつろいでいる姿を見ることができる。季節を感じる生け花が飾られ、テレビを見たり、利用者同士や職員との会話を楽しまくつろぎのスペースになっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居場所は居室か食堂と限られてはいるが、利用者の居室で利用者同士話したり、リビングで話したり、それぞれのペースで生活されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物が多い居室と、私物が殆どない居室のギャップが激しく、あまり私物を持ってきたくないという利用者が多い状況である。	利用者が居心地よく過ごせるよう、利用者各々のニーズにあわせた個性ある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から建物内にいたるまでバリアフリー化となっており、利用者がスムーズに移動しやすい環境となっている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム 多喜人

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム 多喜人

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない